

まちのたから(26) 文化財室通信

シリーズ「日本遺産」 第1話

の地域を持つ魅力の発信に取り組みます。

日本遺産の発信拠点誕生!

大山山麓地域の大山町・柏耆町・江府町・米子市で編んだストーリー「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」が日本遺産に認定されてから1年が経ちました。

この夏、大山寺参道入り口にある「旧こもればび館」が「KOMOREBITO(こもればびと)」として本格稼働予定です。大山開山1300年祭を前に、大山の玄関口に位置する情報発信・観光の拠点としての役割が期待されます。

日本最古の「神坐す山」

日本遺産は、その地域の歴史的特徴・特色を示した魅力あるストーリーとそれを具体的に示す構成文化財で表します。大山山麓のストーリーは5章立てで、22件の構成文化財を挙げてあります。

第1章では、日本最古の「神坐す山」に生まれた「地蔵信仰」と題し、「大山」という山の存在と、その麓で展開した地蔵菩薩の信仰、それに端を発する水を中心とした大山独特の地蔵信仰を表現しました。

私たちに欠かさない存在である大山。古代の書物である『出雲国風土記』の国引き神話には「伯耆国なる火神岳」として登場します。「風土記」は、和銅6(713)年の詔に従い、地名の由来や古老が相伝してきた珍しい話などが報告されたものです。



▲大山北壁



▲日本遺産リーフレット

説話の中に「神」の文字が付く山(因達神山)が登場します。風土記が同じ詔に従い編纂していること、記載の時点で神話として登場していることを加味して、ここでは「最古の神山」と表しました。

当時の外国人が、「日本人が持っていた共通認識」として確認していることから、その頃に大山が日本を代表する「四つの山」の一つであったことが伺えます。

田久弥も著書『日本百名山』で、『出雲国風土記』の記載を踏まえ「伝説的に言えば、大山はわが国で最も古い山の一つである。」と紹介しています。大山は、古代から人々の思いが向けられた山であることを物語っています。

なお、大山町教育委員会では、大山山麓地域のストーリー全容を載せたリーフレットを作成しました。ぜひご利用ください。

日本の四名山

中世末から近世にかけて、外国人宣教師の通事として活躍したロドリゲスは、布教のために日本を研究した書物『日本教会史』に、日本の有名な四つの山の一つとして「伯耆の大山(Daizen)」を記しました。他の四山は、駿河の富士山・大和の釈迦の岳・加賀の白山です。

実際は、出雲国よりも前に編纂された『播磨国風土記』の

平成28年度には、日本遺産を通じて地域を紹介するパンフレットやホームページの作成、現地での案内板の設置、ストーリーと当地域を紹介した映像の作成などを行いました。他にも、これからの観光を担う人材育成のためのガイド養成講座やシンポジウムも開かれました。



▲日本遺産を知る講座

平成29年度も引き続き、こ